

保険業と子ども会
～自己紹介に替えて～

一般社団法人山口県子ども会連合会
常務理事・事務局長 藤村 寿

1 はじめに

昔々、新卒で就職したのは県立育成学校（旧教護院）でした。1980年代初め、校内暴力が全国の学校を席卷した頃です。中学校教員として採用されたのですが、12年間非行児（主に中学生）と寝食をともにしました。「10年で一人前」と言われ、国立武蔵野学院やきぬ川学院をはじめ、中国地方各県の先輩方にはたいへんお世話になりました。今は名称が変わっているかもしれませんが、広島県立広島学園、岡山県立成徳学校、鳥取県立喜多原学園、島根県立わかあゆ学園。35歳までそこにいました。365日24時間、子どもたちとともに青春が過ぎ去ったという感じです。

1990年代に入ると、山口県が全国に先駆けて Outward Bound School (OBS) の教育手法を活用した長期自然体験活動を開始しました。私は当初から参加し、県の事業担当となりました。小学生から指導者養成まで8日～14日の様々なコースがあり、「心の冒険・サマースクール」は四半世紀を超えて続いてきました。その中で、Project Adventure (PA) の教育手法を活用した Adventure Friendship Program in Yamaguchi (AFPY) = 「やまぐちふれあいプログラム」を開発し、学校教育や社会教育の中で紹介してきました。一人では超えられない壁を仲間と協力することで超えていく体験を重ねることで個と集団が成長するための活動です。

2 子ども会とのかかわり

アメリカ・ハリケーン・アイランド OBS での研修を終えた後、県を代表する教育者であった河村文人先生に乞われて県子連の専門委員になりました。現在の住田委員長は1990年に開催された第1回山口県青少年自然体験活動指導者養成講習会（2週間）の県教委の担当で、私は参加者でした。キャンプやレクリエーション、スキー等山口県の野外活動の先駆者でもあった河村先生は、今でも語り草になるような偉大な存在でした。

OBS はもともと野外活動と心理療法を統合した Adventure Therapy (野外療法) としてアメリカで確立した分野です。私は児童自立支援施設勤務の後、日本精神分析学会や日本心理臨床学会に入り、県立の教育センターで教育相談（対象は不登校、いじめ等）の経験があったので誘われたのだと思います。

3 知らなかったこと

キャリアのすべてを提供するつもりで県子連の事務局に来ました。専門委員として20年以上子ども会にかかわってきましたが、その立場からは見えなかったこと、4月に事務局に来て初めてわかったことがたくさんあります。例えば、

- ・子ども会は安全共済会費で成り立っている。
- ・安全共済会制度は法人改革に伴い、H24～旧見舞金制度を発展させて作られた。
- ・安全会発足時の全国の会員数約420万人から240万人に減っている。
- ・年会費のうち、全子連分が70円、県子連分は130円。(その内訳)
- ・子ども会の会員数とは安全共済会費を払った人数のことである。
- ・自治会の保険やボランティア保険等他の保険に加入している場合は子ども会員としてカウントしない。

県子連創立40周年の時に、「子どもから3つの『間』が奪われている。「時間、空間、仲間」がなくなっている。スポーツ少年団に子どもを奪われている。」という説がありました。今や、スポーツ少年団も減っています。多様なニーズに応じて地域には様々な団体や活動があり、子ども会オンリーではなくなっています。有料無料、保護者の同伴の有無等条件はいろいろですが、子どもたちにとって選択肢が増えるのはいいことでしょう。

4 これからのこと

子ども会は保険業になったのか。それが現状を知ってからの第一印象でした。うちの保険の専門家からは「保険と共済は違う」と聞きました。共済制度というのは相互扶助の側面があって、余剰金は配分されると。

地域の総会や県子連の理事会、中四国や全国の会合等に行ったり、事務局を訪れる指導者・育成者と対話したりしてみると、大きく分けて二つの意見があります。一つは財源がなければ事業ができないので、共済会費収入を増やすべきというもの、もう一つは子どものための活動を充実させることが最優先であり、それを通して会員を増やすべきというものです。必ずしも二項対立ではないと思います。当然ながら、課題としては連動している。解決策も一つではないでしょう。

別の観点は、他の団体との連携・協働です。学校は今、多くの課題を抱え、子どもたちも保護者も教員も苦しんでいます。子どもの登下校の安全確保を例にとってみても、学校だけで安全確保は難しい。地域や保護者とともに「見守り隊」を結成している地域がたくさんあります。

山口県がコミュニティ・スクールを推進しているのは、小学校の低学力、中学校の荒れへの対応があったことが大きな要因です。子どもを育てる、リーダーを育てることは一つの団体だけでは難しい。地域の様々な団体が協力して進めるべき時が来ています。「これまでの子ども会」の発想から抜け出して、開かれた子ども会となり、多くの団体、個人と連携しながら活動を進めていかなければ未来はないと思います。